

## 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

活動隊員：寺田英子・紫 宇代

1. 活動日時 2024年1月29日(月) 24時間体制(交代制で勤務制)
2. 活動場所  
珠洲市立 大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)  
避難所使用者数46人：自宅避難29世帯74人
3. 被害状況(内閣府：1月29日9:00現在) 人的被害：石川県死者238人：行方不明 19人
4. 天候：曇天 最高気温6℃ 最低気温1℃

### 5. 活動の実際

- 7:00 ホットタオル配布・健康観察
- 7:30 2次避難準備
- 8:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting
- 9:30 2次避難者の見送り
- 10:00 体育館の換気・マスク交換・体操・看護師 meeting
- 10:30 下肢うっ血性皮膚炎の避難者の創洗浄ケア
- 11:30 片付け・うがい準備など
- 12:00 昼食・配膳・片付け
- 13:00 飲料・物資配給コーナーの整理整頓
- 13:30 大谷中学校周辺の被災状況確認
- 14:30 歯科・口腔ケアのニーズ確認
- 16:00 換気・ラジオ体操・うがいの促し
- 17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting
- 18:00 夕食 配膳
- 19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting (本部長含む)
- 19:45 看護師ラウンド：健康観察・傾聴・個室の巡回
- 21:00 個室ラウンド、消灯
- 22:00 報告書記載
- 23:00 看護師巡回

### 6. 考察

#### 【避難全体について】

家屋修理の事情などにより1泊だけ近隣住民を受け入れるなどして、本日の入所者は11名増の55名となった。日常生活援助の必要な方が1.5次避難所に移動したことで看護量も軽減した。その分、傾聴や歯科ニーズの把握などに時間を取ることができた。

1.5 次・2次避難所に移動する避難者の方々も見送る側もみな、涙して別れを惜しんでいた。今回の地震では道路の寸断や積雪により孤立していた地域であるが、コミュニティの強固なつながりにより、住民同士がよく助け合って危機を乗り越えようとしていると感じた。

**【健康面について】**

夜間咳き込んでいる入所者も多く、夜間不眠を訴える入所者も多い。高齢者が多く、心身のストレスが蓄積するこの時期に重症化しないよう早期の介入が必要である。

避難生活も長引く中で、積極的にボランティアとして動く入所者もいる一方で、じっと臥床していることが多い方もいる。日々の日課に体操を組み込み、体を動かすように促しているが、特に高齢者は「することがない」と、活動性の低下をきたしている状況である。こうした状況が続くと生活不活発病も懸念されるため、社会参加の機会があるように工夫した介入が必要である。

以上